

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392900052		
法人名	株式会社サカイ		
事業所名	グループホームあじさい「みゆき」 1階		
所在地	愛知県刈谷市御幸町4-212		
自己評価作成日	平成28年10月4日	評価結果市町村受理日	平成29年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様によって“居心地の良い雰囲気作り”を心がけ日頃のケアにあたっている、ご利用者様お一人お一人の尊厳を大切に、個別ケアの充実に努めている。また、職員とご利用者様とが“馴染みの関係”となれるよう日頃のコミュニケーションを大切にしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=2392900052-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がホームでの生活を楽しんでほしいという思いを大切にしながら、ホームでは外部の関係の方の協力を得たホームへの移動販売の取り組みが継続されている。外出の機会も多くつくられており、近隣のデイサービスで行われているカフェの際には、ホームからも利用者が参加しており、地域の様々な方との交流の機会につながっている。運営推進会議では、利用者の日常や行事の写真が活用されている。家族や地域の方をはじめとする出席者にホームでの生活が分かるような取り組みが行われている。家族とも関係づくりが行われており、毎月利用者一人ひとりに宛てた手紙による報告をはじめ、ホームの行事には家族の参加が得られており、交流につながっている。また、ホームの運営法人では年間を通じて職員研修の機会がつけられており、職員の資質向上に向けた取り組みも継続されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年10月14日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会議やモニタリングの機会には「その人らしく」ケアについて話し合いを行っている。目につきやすい所に掲示してある。	法人全体の基本理念の他に、ホーム独自の理念がつけられており、事務室内に掲示されている。また、法人の委員会による毎月毎に作成するスローガンがあり、朝礼の時間に唱和し、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	様々な行事(盆踊り、バス旅行、グランドゴルフ、餅つきなど)に参加している。また、行事には準備の段階から参加させていただいている。隣近所の畑の方から、野菜の差し入れや手作り作品のプレゼント、おやつとの差し入れなど頂いている。	地域の保育園との交流、地域ボランティア等の訪問があり、交流につながっている。ホームで開催する行事の際には、地域の方の参加が得られている。また、近隣のデイサービスが行っているカフェを通じた交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議など、地域の方々が集う場では、意識的に認知症について、話題提供させていただき、地域の方からの質問にもお答えしている。地域の65歳以上の一人暮らしの高齢者のボランティアの受け入れなど。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議のなかで、ホームの活動内容や行事の報告等を行い、意見の投げかけや、情報提供していただけるような働きかけを行っている。	会議の際には、日常生活や行事での写真を活用しており、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、会議には、様々な分野の専門職の方の出席もあり、情報交換等にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	包括支援センターの職員の方にも、運営推進会議の参加を促がしている。会議録などもお渡ししている。	市内のグループホームが集まった「地域ケア会議」があり、ホームも参加しており、情報交換を行っている。地域包括支援センターとも、情報交換を行いながら、ホームの運営に活かしている。また、介護相談員の訪問もあり、情報交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会を通して、身体拘束に当てはまる内容の確認や、職員同士で意見交換できる機会を設けている。現在玄関は施錠している。	ホーム内には施錠は無く、玄関、ユニット出入り口等、職員間の見守りが行われている。法人に専門の委員会が組織されており、毎月のスローガン等、職員の振り返りの機会がつけられている。また、定期的な研修会の機会もつけられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者は毎月の会議にて虐待検討委員会にて各事業者の情報共有や、学びの場がある。その内容を各ユニット会議にて報告、検討している。勉強会を開催、職員の不適切ケアを発見した際は虐待に発展しないよう話し合いや、入居者様のアセスメントを行っている。 1/8		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常的に学ぶ機会を設けてはいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、提供するサービス内容や利用料金等、パンフレット、資料を用いて、十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族との信頼関係を築き、意見、要望などを常に聞き入れられる状況をつくり、運営に反映させるよう努めている。ご家族様からの要望や苦情に関しては会議にも報告している。	ホームで開催している行事を通じて、家族との交流の機会がつけられている。家族からの要望等については、管理者の他、法人の担当者により対応も行われている。また、毎月、ホーム便りが作成され、職員の手書きによる個別のメッセージも添えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から職員が意見を出しやすい雰囲気作りに努めていす、機械、幹部会議、管理者会議などでリーダー、管理者が会社に報告している。	ホームでは、毎月のユニット会議が行われており、管理者が把握した職員からの意見等は、法人の関連事業所の管理者が集まる会議でも話し合われ、運営への反映につなげている。また、管理者による個別面談の機会もつけられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎月の社内研修に出席、個々の職員が向上できるような機械を設けている。マニュアルの改訂、休憩時間などを見直し、職場環境の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修に関して年間でカリキュラムを作成全職員を対象に受講している。又毎月のユニット会議でも勉強会開催している。法人外の研修へは案内など掲示し職員が参加しやすいようしている。また、会社からも手当など支給もある。名古屋市、県、社協の研修は会社から申し込み行い参加をうながしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	社外研修などにでかけた際に交流はあるものの、その先の実践事例はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者様のペースに合わせ話を傾聴する姿勢を大切にしている、声かけの仕方や、本人の表情などから思いの共有に努めている。職員より積極的にコミュニケーションをとるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前のアセスメントで必ずご意向をうかがっている、入所後もこまめに状況報告行い意見しやすい関係作りを行っている。3ヶ月に1回のケアプランの見直し時にも聞きなおしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前のアセスメントにて、必要な支援に関して初回プラン立案の際に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	暮らしを共にしている実感を持ち、本人の能力、個性を活かした取組みがなされている。入居者同士が気遣い、助け合える関係が気づけるよう職員が間に入りコミュニケーションを円滑に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月ホームでの様子をまとめた手書きの便りと写真をおおくりさせていただいている、面会時はご本人様との時間を大切にさせていただき、ご家族様にもお声かけさせていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	定期的に面会に来てくださるご友人などには、ゆっくりお話しして頂けるような環境を提供している。地域のイベントにて、入所前のご友人と再会、会話を楽しんだり、買い物へ出かけた際など気軽に声を掛けあえる、関係ができていく。	利用者の中には、近所の友人、知人がホームに訪問が得られている他、今までの理美容を継続している方もおり、馴染みの関係の交流が続いている。利用者によっては、買い物や食事をはじめ、墓参り等の外出を通じて家族と過ごすこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士のコミュニケーションの橋渡しをスタッフがするようにしている。ご利用者様同士の相性など考え、リビング席を考えている。同じ作業などを、通して交流が持てるよう考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者の心身の状態や事情を考慮し、移り住む先の関係者に対して十分に本人のことを伝え、できる限りの相談、支援を行っている。不幸の連絡などいただける。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	モニタリングは3ヶ月に一度行い、個別の計画に本人様の意向を汲み取る努力をしている。普段の会話や行動・表情から意向や思い、希望を汲み取るようにしている。その方に合わせたコミュニケーション技法を検討、実践している。	利用者別にノート(支援経過記録)が用意されており、利用者に関する情報を職員間で共有できる取り組みが行われている、また、職員間で担当制をつくり、利用者の把握を行いながら、毎月のケアカンファレンスの場への話し合いにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメントを通じて把握に努めて、居室になじみのものを持ってきていただいている。入居前の生活空間や住んでいた環境を把握できるように、できる限り入居前に自宅を訪問させていただくようにしている。また、ご家族様との関わりの中からヒントを得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々のご利用者様の生活パターンに合わせた、ケアを心がけ、職員同士情報の共有に努めている。まずは、行って頂き様子を見させていただく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングはおおむね3か月に1度開催している、ケアの問題点は、その都度会議などで話し合いをおこなっている。モニタリング前にご家族様にご意見など、うかがえるよう、案内をお送りしている。	6か月毎に見直される介護計画については、モニタリングを毎月行いながら変化の把握が行われており、随時の見直しも行われている。また、日常的にもチェック表を活用しており、介護計画の内容と日常の支援につながるよう取り組んでいる。	介護計画について、ホームでの生活に合わせた内容の検討をはじめ、職員間での話し合いの機会を増やす等、介護計画が利用者の生活の向上につながることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ご利用者様の体調やケアプランの実施状況や言動行動などを、職員全員が必ず目を通す記録物に記録している。1冊のファイルに記載し、勤務に入る前に目を通している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	保険外サービスとして通院介助など適宜検討し必要ならば実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者が活用できる資源を考え日々の生活の中に取り入れている。スーパー、花屋さんに仏花を買いに出かけたり、喫茶店に出かけたりしている。学校や地域包括との連携を今後も検討していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	意向に沿った医療機関への受診を行っている。受診の結果は家族へ電話でお伝えし、家族の医療に関しての要望も主治医に伝えるようにしている	協力医による月2回利用者全員の訪問診療及び随時の往診が行われている。受診については、家族による支援であるが、ホームからも情報提供が行われている。また、法人の訪問看護による医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師が定期的に訪問し利用者様の状態をチェックしていただき、職員に伝えてくださる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院のソーシャルワーカーを必ず通すようにしており、病院との連携に努めている。入居の問い合わせ等でMSWから連絡をいただくことも多く、交流を持っている。個別にサマリーを作成し提供させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合における対応における指針を設けておりご同意いただいている。重度化した場合は、ご家族様、本人様、協力医師の意見を総合しホームの介護力も十分にご説明して適切な支援ができるように努めています。	法人全体で利用者の看取りを見据えた支援に取り組んでおり、ホームでも協力医の支援を受けながら利用者の看取り支援を行っている。家族とも利用者の状態変化にあわせた話し合いが行われており、意向等に合わせた支援につなげている。	ホームでも看取りを見据えた支援を行っていることもあり、ホームでの取り組み、経験が今後の利用者、家族への支援に活かされることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎月の会議にて勉強会を行い、その内容をユニット会議にて勉強会として行っている。救急多隊への情報提供表なども作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に二回の避難訓練を実施しています。夜間を想定した訓練の開催も行っている。通報訓練や防災設備の確認、近隣の避難場所の確認をしている	年2回、夜間も想定した避難訓練を実施しており、通報装置の確認も行われている。地域の方との連携についても、近隣に住んでいる家族の参加等、関係づくりに取り組んでいる。また、ホーム2階に水、食料等の備蓄品の確保も行われている。	地域の方とも前向きな交流が行われている。ホームでも支援可能な内容を検討する等、非常災害時における地域の方との相互の協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お1人お1人が人生の大先輩という認識を忘れず、敬意をもって接している。また入浴時や排泄時にはプライバシーを損ねないような対応を心がけている。声掛けなどにも注意をしている。	法人内に「虐待防止検討委員会」と「サービス向上委員会」が組織されており、「毎月のスローガン」を理念とは別に作り、申し送り時に唱和し、職員の振り返りにつなげている。また、ホーム内での研修も行われており、日常的な注意喚起も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	リクエストメニューなど様々な場面でご本人様の意向を必ず聞くように啓蒙している。またご本人様から直接思いを口に出せるよう信頼関係の構築に努めている。入浴後の衣服をご自身より選んでいただく		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様1人1人の生活のペースを考慮し現場のマニュアルを作成している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服などその日着るものを職員と一緒にタンスより選んでいる。また外出レクの時はスカーフを巻いたり、お化粧をして出かけたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立は利用者様の好みと栄養バランスを考え立てています。また週に2回個々の利用者様とその日に食べたいものを一緒に買いに出かけて献立を決めるリクエストメニューを設けております。その他に鉄板のメニューを取り入れ食事を楽しんでいただいている。	メニューについては、ユニット毎に職員間で考えており、買い物と調理を行っている。利用者も調理、食器の片付け等、できることを職員と一緒にやっている。また、食事の際には、職員も一緒に食事を行っており、楽しく食事ができる取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の利用者様の状況に合わせた食事を提供させていただいております。水分摂取量の少ないかたは、早めに水分チェックを行っている。食事作りに関して職員も入居者様に教えていただきながら、スキルアップを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食後行うように指示をしている。介助がいる方は声かけ、介助している。適宜歯科医師の往診を受け口腔ケアに関するアドバイスをいただいている。夜間は義歯洗浄剤を使用しお預かりをしている利用者様もみえます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	パットやリハビリパンツの汚染を減らすよう時間で誘導している、排泄パターンを把握する為チェック表も活用している。また下着、ズボンの上げ下げはなるべく利用者様に行って頂けるよう支援しております。	毎日の排泄チェック表に基づいて、排泄パターンの把握に努め、トイレで排泄できるように取り組んでおり、利用者により、排泄状態の維持、改善につなげている。また、毎日の水分量のチェックや、廊下を歩く運動を行い、便秘の予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然排便を心がけ食事の献立にヨーグルトや汁物を提供させていただいている。また便秘の方は主治医と相談しながら下剤のコントロールし、適切な排便が行えるよう援助に努めている。日頃より軽度の運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	概ね1日おきの入浴になっているが、その日の希望をお聞きし入浴していただいている、入浴時間も様々で、お話し好きの方は長くお話を楽しませている。月に1回入浴楽しめる企画を考えている。	入浴は、利用者の状態に合わせてながら、週3回の支援を行っているが、希望によっては、毎日入浴することも可能である。重度の利用者については、2人介助での支援も行われている。また、季節に合わせた柚子湯、菖蒲湯等の楽しみもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活パターンにあわせ就寝ケアを行っている。みなさまに、安心して眠れるよう、傾聴したりテレビをみられたり個々のペースで休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬は全員が把握できるよう、管理者または職員が薬剤師さんからの説明を聞き、申し送りを行っている、また薬の説明ファイルを作成し、変更などあった場合はファイルにとじたり、変更事項を記載している、ファイルは毎日目をとおすよう指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の生活の中でのその人その人の役割を見つけ毎日実行できるよう支援している、また職員がひとりひとりにあった役割、楽しみを常に考え提供させていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	月間予定に散歩を取り入れたり、ご希望のある方には都度対応している、また1日おきに食材の買い出しへ地域のスーパーに利用者様と出かけている、利用者様の馴染みのある場所や希望の場所をお聞きし毎月外出レクリエーションを企画している。	ホーム周辺への散歩や買い物による外出をはじめ、近隣のデイサービスとの交流も行われている。法人の関連事業所にある交流スペースい出かけることもある。また、法人内で日帰り旅行の企画があり、ホームからも希望者が出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる方には、なるべくご自分で管理していただき、こちらで出納帳などをつけている。買い物の際もなるべく利用者様にお支払していただけるよう工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族電話したいと要望ある方に関しては、個別に対応させていただいている。また年に1回の暑中見舞いや年賀状のやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせた作品を利用者様と作成し、掲示させていただいている、常に利用者様の反応に目をくばり、掲示も工夫している。	リビングはゆったりとしており、窓は大きく、風通しも良い環境である。ホームの外には畑があり、季節の野菜作りが行われている。また、リビングや通路の壁には、行事での様子を写した写真が飾られている他、利用者の作品も掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングTVまえや、廊下にソファを設置しており利用者同士会話を楽しんでみえ、職員もその輪の中に入れていただいている。また利用者同士の相性を考え席を配置させていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	基本的に使い慣れたものを持ち込んでいただけるようお話しさせていただいています。仏壇など持ち込んでいるかたもみえる、ご本人様の趣味に合わせてカレンダーを飾ったり、家族の写真を飾っていただけるよう支援しています。	居室には、意向にも合わせながら、利用者の入居前からの馴染みの家具、鏡台等が持ち込まれており、居室で過ごしている方がいる。その一方で、シンプルな雰囲気のある居室もあり、その人に合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	過剰な掲示は避け、生活を通して自立した生活を送れるよう常に検討している。		